



漢分
 自詠
 接覽
 宗原長
 元湯和軒
 全

79
 3869
 109



3869
109

利
3942
43

此書々當時名多々不宗匠家へ十向之れ
自該我乞受之好々友上不違之方と証
人へ去らし之忠孝友吟之と道所の味
白色之句業乃妙他我題之し且匠名
証し遠く他社へ便利ありし物之り合
証の証あり

是上決る宗匠の位証あり

陰陽軒和合某原身藏

此

福吟自林南

冠吟
自詠博覽

此書と當時名多し宗匠家へ十句之れ
自詠我乞受之好之たまふ選之方を詠
人へ表らし忠孝貞吟よと道行の函差
白色の向葉乃妙他我題を一旦函名
記し遠く他社へ便利ありし物古今無
類の珍本あり

是は懐く宗匠の後縁に去ス

陰陽軒和合泉原貞藏編輯



大正七年三月廿二日
室平藏氏贈

冠吟自詠博覽

〇一



清芥齋巖水

西長堀字和高橋
南詰西入

山口茂

腹
と
不

十日我之市察人々

志んくくと

卵張ツてとふ飯マ粒ぞ

上
分
別

浮名之立は張形々

見
相

坂屋乃母者ぶ嫁連て

ツクぐ思て

蓋り月賞美とふとて

元のもく阿み

漢り之かけと袴とやケド

露
頭
して

嵐小着せとぬれ衣又

程
ほ
と
こ

まど菟乃ふい髪結ふて

神
の
正
直

義理乃判うら流替は

人
の
ま
じ
り

急廟小濃と引とケド

桃宴高曲

井池筋平野町
菊入

和田茂

別おトヤ

産ウツレル小コイサカハハ川カハハケド

習ナふハ馴

店タナ乃ノ符フ帳チャウといトハハとのノふ

大事オホコト小コうウけ

佃ヒノハ履ハキぬル床トコ乃ノ間マハ

何ナニぶハふハい

琴コト張テットけケ絃ヒズクナト

脇目ワキメもモみミずズ

コロンコロン〜〜空カラ吉キチ田タ屋ヤハ

笑ウツ〜〜い

何ナニんニどト也ヤ有アルル余コノ存ゾノのノ鼻ハナ

無ム理リ云クふフ

蘭ラン香カウ侍サマまマでデ切キらラをヲい

えエつツ〜〜笑ウツひ

傍カ々々うウらラ目メ鼻ハをヲいハはハ〜

是コノでデ〜〜い

裸ハダカ〜〜産ウツレル〜〜事コト〜〜思オモハハヤ

えエんン分ブりリかカまマつツて

赤アカ苦ク勞ラウらラトトルル夜ヨルル屋ヤ〜〜

風律高芦笛

京所塚上通り
五丁目

粉井氏

終ハカるもれ

気の勢ふ世で新形も

力ふ任し

人乃地券を子シ筆シ筭スの

生レれ徒

ちりめんガ雑カ喉カふらんカ赤カ蛸カコ

急シつめく

吳イ見ケもせんぞ見レ切りイ

勤シ小コ愚ウ々

げらくシ笑ハろク親オヤのヒを

不ツつクけく

月キ撫スて見テ質シ札シの

慈ヨシ徳トクをふれ

一ヒト人リりサ乃ニ暮ユエヲふ

別ワ親ニ

慈ニ齒ヲを初ハ子ヲ幅ヲたガる

おめノ後ノ鏡ヲを

来キたるニ神カミ代ノの振ヲり云ふテ

子コ氣キやナア

廓サト乃ニ風カゼ呂ロ屋ヤを男ヲとシり

紅梅舎春人

伏見町中橋筋
あこ

大澤氏

ヤ、志を

後軒の登ふツト先づ

獲る遠ふ

や、ら笑と不見の所他

今ふかきとぬ

貧者乃心おらんとのそ

残念

らんとのすくと思とのふ

浮州

ハアどく根張おろとや

夜ル昼

家移りの荷と嫁の荷で

方々から

名乃附まぐそ淀川と

志やんくと

庭の勝手も知んのに

丈夫ふめん

着る度母者我も出に

高ふと高り

そらん何あそ孫キてんふ



蘆月



〇七

足え

じヨロ

清芬齋

巖水

し
梅うか

是で

うそ

豊屋堂墓村

天王寺
北の門前
大江氏

四海兄弟

譲り合へりていふ事

人の人ト

金子ん寶とみくらどに

踏込く

道乃廣さふ 翁 鳥 の

モヤく

ガラスいろとふ 銘 の 子 ぞ

發明

器量成付て去 亭 主 に

何れ其

磨さや光り乃見つ不世不

時の画

ア、いふいふと以てさや

立横子

端書へ丈さ長あつて

をへられて

ちつとお婆を 剛 ぶつと

まをく

守ふ正路ふ喜ぶる来て

四海浪静丸

梅橙の本筋安土所
由文

長啓氏

谷越山越

思^シ取^リやろそ民乃情^シ残

奥さ免類

お年^シ脊^シ負^リとる降^リ出^シて

うろくと

まぶさめん
る小甘^ア酒^ガ此

何^ニの其

咲^ル乃^ガ子^ホ不^ホ鼓^ホ子^ホ花^ホ此

冷ぐふ汗

教師^シの折^リ少^シや窓^ノ戸^ノ陰^ノで

天^ノの雲^ハ

絹^ノ布^ノ育^ミを弱^ハひけど

長生殿

紅^クさぶの厩^ノ来^ルふ粒^キを

うろくと

向^ッふ惚^レとん金^トやのふ

志^スと^シい^ハや

ビチヨく雪^ツ踏^タ提^ゲとつて

真^ニ實^ニ心^ニ

落^ケ葉^ノを^シ侍^リて^シ誕^メ生^ル日^ト也

塩湯軒和合

長瀬中橋北詰
西入

泉原氏

元子張込

按摩めお粥止メとつと

けつまづき

仕舞と泡は釘ギめ

酒さざん

了雅呼ぶのを所冠者

あいらぶの肉

振で写真此前押して

世ハ賑い

一屋で糊たふ以マア

いろく博覧

ドレーぶく

乳母をお森代も寐換といふ

傘のつぐり

根上りの松椅子あいて

改名昇進

了雅お猪の目そへふれを

麒麟鳳凰

茄子のへ夕毛 椎茸と

軍手少や引カバ電針機

梅延家春陸

博勞町三丁目
十三番地

小林氏

涙子ナミふコ

向ふムカまマをヲ開化カウキして

渡ワタるルにニ身ミ

宿屋ヤクヤぞゾ職シヨクのノ出デしシあら

苦クふフ

満マン花ハナ乃ノ中ナカ丸マル屎シッツ荷ネ負ヲて

急イシ頃キふフ

我ワレをヲ濡ヌらラしシてテ素キとト袖スエと

跡追アトッツかけ

守マモりリ持テッツてテ舞マ場バまで

徳トク氣キ故コ

孝コウ女ニョとト笑ワてテ梨リ子シ賣ウえ

満マン小コ魚イサらん

座ザ頭トウ舞マとトるル籠コりリ堂ドウで

星ホシ数カズをヲ考カウ

常ツネをヲ喜キ綿ワタのノ入イとト方カタ紙シ

盡ツキぬヌふフのノめ

簾シデのノ何ナニげゲとト横ヨコ木キ雪ユキのノ詩シで

目メ出デ度タクく

花ハナのノ納ナドメメてテ古コのノ帳チヤウを

富貴館長命

西區北堀江三番町
廿五番地

今田氏

理不^フ尽^ズ小

おふ在^マて^マらそ花^ハぶ^ハやのふ

強^クイ^ク

悪^クイ蝶^マく^マで有^クナ^クア

奇^クく妙^ク

云^ハ粒^リでも降^ルふ植^ケつる日^ヒ々

我^ガ世^ノの那^ナ

午^{ヒル}睡^ネの夢^{ユメ}も^カ新^カ抱^ダひて

極^ク楽^ク

あ道^{ミチ}に^ニ銭^{ゼン}を^ヲ入^ケッ^クケ^ド

厝^ウくお拵^テ

せつ^ツく甲斐^カお^ハ梁^{リヤウ}惠^ヱ紙^シ

目^メ出^デ夜^ヤと

神^{カミ}も祭^{マツル}つ^クえ^ニ更^マる^ル乃^ハ

海^{ウミ}く^クは^ハ舞^{マユ}

今^{イマ}朝^{アサ}を^ヲ按^ア摩^マし^テ如^ニ月^{ツキ}下^カ翁^ヲも

空^{ソラ}の真^{マコト}子^コ

嫁^メお^ハぐ^ハん^ハ気^キで^テ有^クは^ハれ^ルふ

連^{レン}理^リの契^ケり

一^{ヒト}ツ^ツを^ヲ粘^ネけん^ハ呪^{コト} ^ニ年^{ネン}

旭居鶴翁

北平野町を丁目
五島地

松村氏

市恩の海山

注連をてのみのみり看極へ

ふまら〜

紹屋類夫々書カ〜

をま〜

勤気退ヶと實意あら

せま〜

譽々〜んと通傳が〜

便りふ以

遠ヌ〜見〜居〜

何ら〜

寄りや豊年〜乃吐〜

と〜悪〜

讀メあやる古で仕舞をの

市の字〜

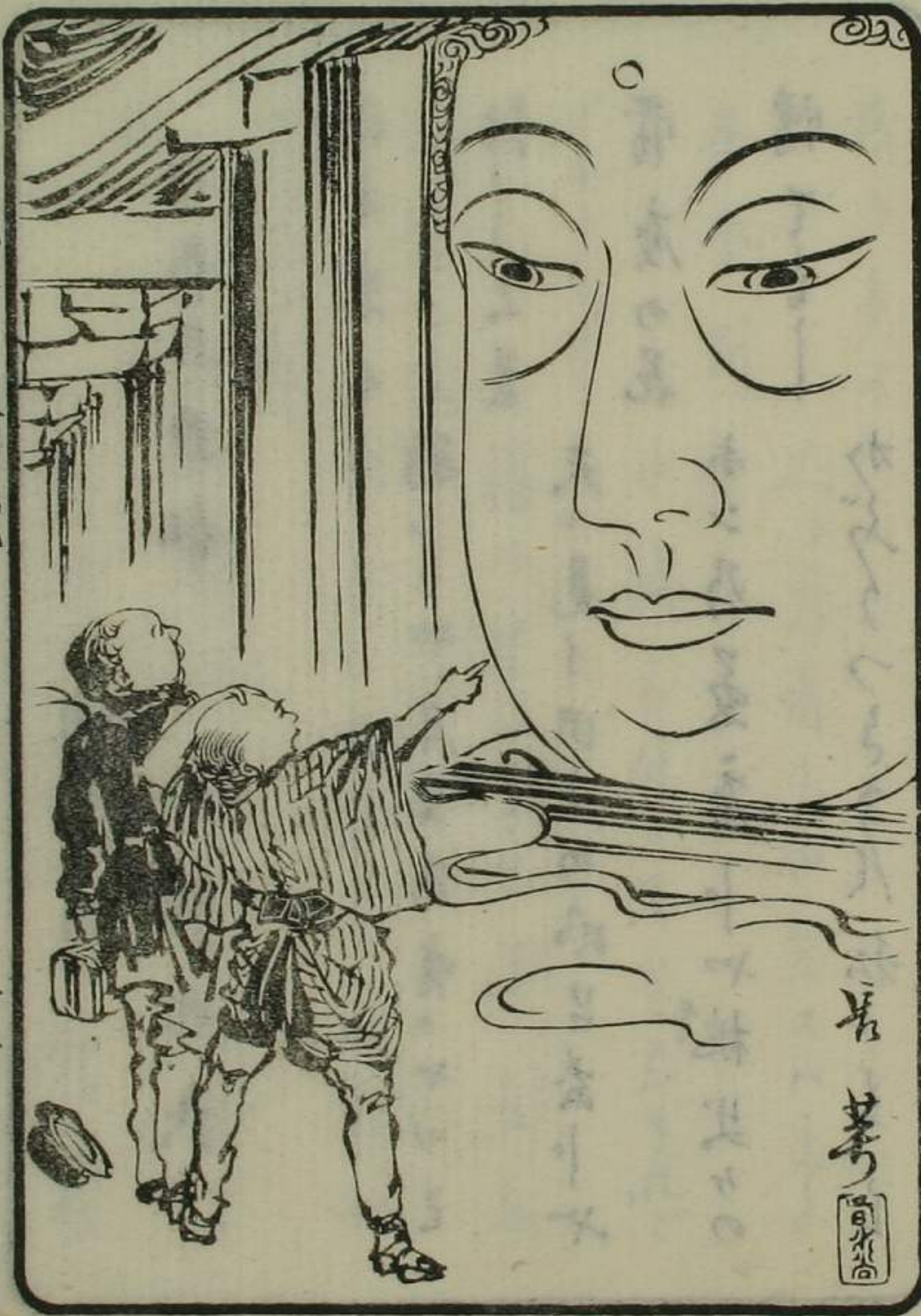
漆田の法来を有り〜

ちやり〜

き介三掛ヶ〜

臨時のめうけ

酒屋の瓢まが朝出〜



冠吟自詠博覽

〇十三

長考
百水画

歴然と

桃宴
 曲水

京のハ

綾子

吹いさケド

竹養亭席勢

南堀江上通
式丁目

堀内氏

西之東也

徳トヤ身ト乃有ルヤツ己

はーとま

夫レ見イ此才の風呂者トヤ

當座の花

ホニ乃桑店トヤ桃^モ出ケの

憎^ミら^ハい

かぶりつさまん私ニ赤ら

残り多イ

人ト乃肴トヤ翌スハマ^ク

無分別

手紙を付ケて是ふそれと

ブル^クブル^ク

湯の中ゲマア^{ダウ}道^{ラク}楽^ホ

待^ガん^のま^はな

吐^クの出来ん綿打や

かま^みが^なり

借^ス沙^ス浜^マそ^十露^ロ盤^{バン}で

田

愛^コ明^アケ^ふの^の石^イ燈^チ籠^カ

浅茅庵羅山

北塘江上通都丁目
十五書地

民村氏

春 採

山さりと廻マシり菊ガイ歳イ乞

いさまし

百花の中残 魁ケイノケ

夏ら

陽気ふ集ユウと夕暮グレの

閑化

時ホト鳥ギスさく星ふ酒ケ

秋乃味

兼と紅葉と補養ホウして

ふぶ

何所の在所ゾウをふ出来て

冬 採

摺ズり少シウ強キョウふ

まづ

存ゾウの仕出シと注連賣ツルシの

雑ザツり

マア上ウりんリン大幸ダイ毒ドクキヤ

何 遠 意

女夫メウの仕シふフ乃ノ仕シるル乃ノ残ゼン

管絃齋素閣

浪花橋筋安土所
北入

村井氏

新仕合

四五軒 名札入レ、あり

結 借 養

一葉お 呉やお 嚙みえ

五年、目

派子ふ 往々、本 街道

それな

初生り 加いふ 氣母所、此

子に一ツ

嬰撮先 子、おせが

志々、八目茶

母者、小便ふ 何 扇、え

兼お、て

朝、多げ、巾い、て、さ

場合、きり

は、上、張、し、ふ、日、短、カ、れ

ほんの、お祝養

開、が、い、手、張、借、ら、い、ご、も

大海、張、ち、げ

母者、あ、さ、れ、登、之、扇、糸、の

木火土金水

南區長堤橋筋
上至丁目三番地

平田氏

一尋高コふ

羽根乃うつくふ車屋を

ひざりチウク

建石際ワリ茶子店

泪の狗牙

言イまざらして夏瘦と

舟

まづ情が添えぬ夜もさら

みづまのして

眼が覚メふ寝ムる方

重ル悦

めとつゝ新ラの床カ板

近む響

風消乃灯が同行

おと入

家具整をぬふまやづつ

うらありと

四下古キ制つゝ鼻

まづあ晴

長家あまけ悦らんて

五式庵加一

法花橋筋北久字町
北へ入
杉田氏

一陽未復

樂^トを^ト居^ト藉^トあら^ト眼^ト元^トま^トぐ

吾^レ此^レ中^レよ^レあ^レて

葉^ト搖^トふ^トま^トぐ^ト人^ト絶^トへ^トあ

今日^トぞ^ト目^トぢ^トぢ

朝^トから^ト入^トッ^トて^ト薫^トふ^ト湯^トふ

市^ト代^ト古^ト平

涼^トふ^ト涼^トんで^ト何^ト所^トと^トそ^トに

中^ト分^トふ^ト一

二^ト日^トを^ト譽^トメ^ト十^ト六^ト月^トイ^トと

雅^ト肉^トを^ト愛

を^ト以^トて^トり^ト碎^トて^ト流^トれ^トま^トぐ

コ^トリ^トヤ^ト忍^トぶ^トい

思^トふ^トは^ト椽^トへ^ト寒^トが^トり^トを

評^ト判^トと^トし

厚^トい^ト繁^ト華^トの^ト氷^トり^トさ^トを

茶^トり^トが^ト甘^トい

里^トト^トぐ^トを^トゆ^トむ^ト也^ト猿^ト常^ト一^トも

柔^ト和^ト大^ト優

酒^トを^ト落^トす^トナ^トト^ト礼^トふ^ト徳^トを^トら



冠吟自詠博覽

〇十九

冠吟自詠

強人食
 悟サトツ〜後ノ
 如ニヨ意イ
 持ツと
 風律フウリツ
 笙セウ

東蕪舎梅一

系所堀羽子板橋
云十武善地

林氏

槌づく庭

獅子おんちり

さくくつふ

鼻高く

梅本屋蘭乃客と見て

乳豆の痛ム齒形から

他人氣ぶ出る花嫁小

茶ぐ抱いとり所非燈乃

云引廣ふ

苦勞のさまぐ

蟹の跡ジヨリ

今来多不

跡や先

目出〜い

サア溜むごとく小口から

空のゆり〜と〜来ふ鴨も

向ッからの出横おとあ〜

惚ふ間が舞ひとあ〜つえ

厭まん旅ぐ向ッまん唇

母者れ唇もつえ乾〜のら

蕉風窓双鶴

南辰丸神在末門町
女紅場にて

堀口氏

志不らしし

かあり志とふて菊の花の

何にと愛ふ

麦飯荒しな雁もやうと

だらしくと

々ふと下ダその卯の屯

尊顔好し

五月キ空らあり珠更らに

子氣ふやナア

あふふと近乃我精まに

ひそひそし

読ム新聞ニ日ガ飛ンテ

料理培林

美服クハ去ツテ我身から

柳夕顔

鶴ガ釣瓶袋取りそふふ

我から先キ

車玉切らば母者人れ

紫橙机

親を讀メんで海ンどけど

慈堂應一

南原日本橋筋一丁目
七番地

長尾氏

いろはもまき

我レえまぶいまの切生るまで

うろくへの

故しやふえ獵乃手ふ

藝れ徳

他うらえさへ氣の毒ク

どんねんく

灘櫻しつ停車場

井の内を住換

居ハきふ茶盆之辻一たら

えがらとま

音ヤびんそんか 盃キ

おろーろい

餘もあうたい七度

水ぎとたれ

見へんふ情人の仕業とい

やまーいめん

知らんぶあき乃手助あや

我レんごら

行燈と碁まのくらふん

遊る房曲賀

上倍町六丁目
百八十番地

稻垣氏

窮屋ふ
 意でくづく〜
 猿ふやケド
 名詠い
 慶長お古イ一ト〜
 春おんぞ
 分ん〜過ぬ望〜ふら
 お道の
 備ふ徳乃余を無利と

ま〜く〜

寐〜ふ

コワい〜に

音羽や氣どり

堀出〜物

花カ嵐

小押水敷を〜
 ドモ仕扱〜無イ浅いふし
 舟阿のりから方角が
 泣カ〜の樂ヲさ〜居ルカ
 急〜表具も留エさ〜
 タアふ在〜
 羽目おろ



○廿五

窮屈キウクツ赤

十分
さそ

红梅舎

十人

結ケツ搦コ

さそ

花眺菴春居

河波屋中通武丁目
七番地

金田氏

陽氣ト如ナア

私ニシヤ礼者請キ

四方ノ敵アリ

遠シクケテ乃相シ

無 税

居リ招ヒテ朝必此

歴然ト

今年ノ之業のまじ世話

難波

其契ツ持ツテ来ラレテ

矢張世ノ事

折リふ々晴ラレリ

万代不易

皆之以之虫柱ニカ

利ト元

此悦ム何事ハ世

歌 人

急ムガ者物濃ラ

耳ライ疑ハ

此短冊ニらん留メ

春窓亭表史

源正寺松谷町仍當り
ぬけらる

濱田氏

遊る古代

譽人か多心 咲花此

うかしくと

夜暇一隅田の川流ふ

むゆりりと

善哉の奥ふを 素客あ

もふりちふ

時ふ凌ギふ 堀船へ

長ひく

侍の夜々恋れぬとりて

どふぞして

静も憂きたる能い程と

まろしきと

禅の方々かくぞとる

大おぬ

膝を崩さぬ碎てとる

見とられ

寝が多ふと身乃内ふ

富貴此基

多居越スの春朝くりに

白貫堂鷹丸

西横屋幸丁目肥後藩
南詰南入
吉澤氏

湖 水 下 流

繁昌 穀ガハ少ヤ^ナ得^{トク}意^イ此

浅瀬ヲ^シ深^クリ

俱^{トモ}ニ手^テ付^ケ子^コ乃^ノ職^{シヨク}哉

手^テ插^ス之^ノ

勳^{イサナ}章^{シヨウ}之^ノ第^{ダイ}じ^ニカ^ク玉^{タマ}此

ふ^フの^ノ人^{ヒト}王^ヲ

我^ガレ^レ元^{ゲン}ア、^アり^リ人^{ヒト}此^{コノ}非^ヒ不^ク

身^ミの上^ノ吐^{ハキ}

何^{ナニ}と見^ミて初^{ハジメ}會^カから

手^テ尔^ニ差^サふ

ヲ、寒^{サム}ムヤ^ヤ此^{コノ}言^{コト}ひくも

病^{ヤマト}リ^ラン^ンフ

上^ウニ^ニ不^フ立^タツ身^ミを^ヲ氣^キも^モ玉^{タマ}ケテ

よ^ヨん^ンど^トと^トも

取^{トル}ツ^ツや^ヤ以^ヨ方^ハ乃^ノ蛇^{ヘビ}の^ノ巢^スを

お^オり^リい^イ切^キり

好^スキ^キさ^サへ^ヘ母^{ハハ}之^ノ苦^クと^ト少^シク

は^ハえ^エろ^ロい^イ

イ^イ正^{セイ}ア^アノ^ノ膏^{コウ}寐^ミ仕^シら^ラれ^レま^マス

梅春亭泰賀

高津四番町
六番地

西村氏

知れぬお花

そらけくせんソレデ

恐縮侍

フツト鼈甲 飯さけ意味に

弁へて

そふ飯不寐^ネる人^ヲ爺^ヲ親^ヲの

フツト気が付

唇^ルおさへ思^ひ齒^乃

おひそりと

寝^不喜^味がさそふやら

気をおんで

印^しがえりも青^体杖

楽おあり

何^こ々^味無^イ味^イ乃^と

念^佛中^に

おう川^うくしとる^諸メ^あふ

ちんちん湯気

今^のい^みえ^々日^限り^で

夜通

差^トされ^さやら^えり^さる^に

應連舎多一

南區接所通
或丁目

貴田氏

名人

熟^{ジツク}セぬ意味の梅^{ウメ}は実^ミの

奥^{ウチ}深^{フカ}以^ヒ

角^{ツノ}振^{フリ}分^{ワケ}と^ト元^{モト}吹^{フク}ク空^{カラ}

培^{ツチ}うら

暴^{ヒゲ}風^{カゼ}を問^トう^ウだ^ダ蘇^ソう^ウられ

ちよこざいふ

庭^{ニワ}うが^ウ律^{リツ}と^ト古^コ池^{イケ}乃^ノ

呵^カられ

此^{コノ}取^{トル}つて^テも^モ不^フ恒^{コト}健^{ケン}出^デて

あらいお入

茅^{チガハ}屋^ヤ此^{コノ}庭^{ニワ}の^ノさ^サい^イご^ゴ屁^ペを

ピコく鼻

高^{タカ}濃^ノで^デ下^{シタ}り^リヤ^ヤ安^{ヤス}み^ミケ^ケド

譯^{ワケ}の^ノ速^{ハヤ}ふ

伴^{トモ}僧^{ソウ}十^{ジュウ}涉^{セツ}強^{キヤウ}込^コんで

屎^シ買^カ

は^ハぶ^ブろ^ロト^ト一^{イチ}姉^シち^チん^ンれ

マア結^{ムス}講^{コウ}

展^{テン}ヲ^ヲか^カま^マさ^サれ^レて^テ藪^{ヤブ}先^{サキ}生^ナ

冠吟自詠博覽

一〇三十一



碁^ゴ打^{ウチ}
 火^ヒ入^イで
 やけし
 ー

我忘れ

常盤堂
 牛島村

應亭八樹門

南大宮町
三丁目

百田氏

ふんのそ

福をもらへば常着ても

跡をいつもう

おがきく胡麻が板の間に

てれうと

眼鏡巾いとしふ釣ふぐく

音のそと

聖地呂へ酒こみ萩分けて

木の葉をりく

何ぞふ何と着てあきらめ

大きてちいさい

猪口から明いて酒を流しも

縁を及連レ

下々素多む鬼乃用を助けて

田舎を系

きんご荷ぶやのふ子減りても

讀さし中

引燈乃皿らふ吸売ラガ

料理悟梅

足指と親子礼もすいて

湊賑亭芦風

京所 堀上通
五丁目

荒木氏

一生の徳
 始末勤ノ中ノぼやいふ
 生レ乃 終
 作リお事らん人愛イを
 人数の強
 教師の力キ不他區わらむ
 了辭定め
 云エど解おが切れるごと

急はあ
 懿徳放レ
 親ハ出ス状を秘しめ
 事知レ兄とて我ガ無キヤ
 終ダられ
 涙子哭むが荷の危から
 勤ふ愚ハ
 進歩ぬ席をいさぶとふ
 おめを憐れ
 筆「こみりや展風活構サを

冠吟自詠博覽

〇三十一

田毎菴活月

西巴新所町通
三丁目五十五番地

森本氏

春のけいせき

らくらくあふりふと梅も乃

忍ぶ面ころも

消^{キエ}跡^トあ^ハ竹^{タケ}を^ノあ^ハの^ノ表^{ウラ}うへ

身はいまあ

つ^ツま^マさ^サせ^セせ^セや^ヤふ^フ竈^{カマド}下^カから

鏡をまて

磨^ハを^ノ小^コ島^{シマ}に^ニ籠^トど^ドか^カら

さまあけ

アノ年^{トシ}磨^ハぐ^グら^ラ汁^{シユ}罌^{ビン}に

油^{アブ}あ^ハあ

連^ツふ^フや^ヤと^トあ^ハふ^フ時^{トキ}折^{オリ}々

目^メお^オ度^ドと^トし

入^イら^ラま^マぬ^ヌと^トあ^ハに^ニ乾^カぬ^ヌ呂^ロも

う^ウう^ウむ^ム春^{ハル}

兼^カり^リ場^バぐ^グあ^ハつ^ツと^ト風^{カゼ}の^ノ匂^{ニオイ}を

積^ツ込^コの^ノ寶^{タカラ}

つ^ツま^マり^リ我^ワ身^ミ息^{イキ}災^{ガイ}い^イう

上^{ジョウ}意^イ難^{ナン}題^{タイ}

麦^{ムギ}も^モろ^ロろ^ロを^ノ睡^{スミ}ゴ^ゴも^モろ^ロふ^フら^ラい

冠吟自詠博覽

龜遊亭詩集

活花橋筋北久宝寺町
北久入
杏村氏

了管定メ

眉^ニガ^ダ延^シて^テ 俄^ニカ^ク解^シに

心^ニあ^らふ

不^レ解^ス心^ニモ^テその^ノ隠^レ居^ルや^ら

けんわほろろ

ホ^イト^ク海^ノ口^ノ 門^ノ表^ノ 此

商言繁昌

同^ニあ^らじ^ク芝^ノ居^ルあ^んづ^ん毛

定本^ノ中^ノあり

送^サ誠^ガが^らフ^ツト^ニ是^ササ^キ着^セて

人^ノ情

多^ク投^ゲ首^ノを^レ余^ノ所^ノの^ノ苦^小

雖^レ然^ト以^テ未^ダ

下^タ夕^ノあ^らむ^草ノ^ガ傳^レ信^ニ然

内^ノ芽^ハ浪^ノ夕

柳^ノ々^々と^カ乳^ノ母^ノ引^キ手^ニ

夜^ノル^昼

萍^ノ々^々秋^ノキ^モ源^ノ心^ノや^ら

勇^気リ^ンク

花^ノを^レ名^ノを^レ伝^レ職^ニ

顯鐘樓鬼貫

為区河波堰浦
三子自正一善地

開 氏

能イ表ラ表ラ

屠獲ふ雜業此看らと

養メられり

運ふ不澄梅の向く是れ也

画能如し

浦ラ名ろくをと弥山から

柔の長イ

石屋棟キ買イとつて

屠 之 梅

燈りて無事しとお隣りの

志んくく

糸根ふを呼が経糸の

田方ハ電信

好事し門ニ出だんケド

忠イ忠イせが

石ふれ石ふれとん

玉小衣

のらげほどけきらい

福德園橋

初らぬ神の理張らけて

冠吟自詠博覽

〇三十七



多用美

四海
静丸

梅見かてり

花さかせ

小

曉坊蓮門

西尾 富島町

氏

らふてから

懸カの菊

ふいとおふじ

鏡西皮

お若^ハニ^ニルの^ノど^ドや^ヤた^タ目^メお^オな^ナと

個^アと^トん^ン賢^カッ^クあり^{アリ}よ^ヨつ^ツと

女^メゴ^ゴ湯^ユの^ノら^ラを^ヲ観^カイ^イと^トふ

宵^ヨふ^フ強^カふ^フと^トあ^アと^トや^ヤんで

二階^ニう^ウら^ラ小^コ便^{ベン}

惘^ウ氣^キの^ノ笑^エ顔^{ガン}

糸^{イト}度^ド子^コ輕^ケ石^シ

狐^{キツ}子^コの^ノ罽^{キン}玉^{ダマ}

工^ク之^シ女^メ表^{ヒヤウ}

ふい^{フイ}と^トき^キり

姉^{アノ}者^{モノ}遠^{トウ}十^{ジュウ}は^ハて^テ一^{イチ}本^{ポン}で

出^デキ^キ事^{コト}外^{ガイ}へ^ヘん^ンの^ノお^オ訓^{クニ}保^ホが

彌^ニ目^メハ^ハツ^ツキ^キリ^リ終^{シュウ}取^クと

又^{マタ}も^モ手^テ傳^{デン}て^テ無^ム人^{ニン}物^{モノ}は

矢^ヤ立^タ乃^ノ巻^{マキ}我^ガ舌^{ゼツ}さ^サと^トへ

雪^{ユキ}ふ^フと^ト音^ネの^ノ為^{タメ}主^{ヌシ}の^ノ夜^ヨは

駒の家瓢

富島

十番地

津田氏

ハアしく仕外

ハアドリきんごデボチンで

天物れスカベ

抜いて尻せり引出ー残

又仕ても

邪んでふの尻尻穴

かどり

安姫どもが己レ乃鼻

捨さるるん

天鷲絨の毛袴けろで

皮剥いて

一寸ぶ代りセツ屋で

いづかたつ

七十一五日立ッ内チふ

ひそがーい

看まーとふケド、珊瑚焼キハ

内股がうやく

申く含客工含イエの

鼻がりける

猫ん雑喉場へ捨られ

知十亭弔目

東庵内子屋町抄目
廿九番地

松山氏

望次茅

新場へ貸し〜木狭之茂

氣成汲ぐ

當座をぬえ母者人か

半らん中あら

学資金との郵便シお

照り曇りテツクモツタリ

糸口〜ふ糸のニトゴト人子茂

氣ぶ穢あり

少ト疎〜とけ赤いおコ

初め由ユ現ゲン

折の〜入テり糸沙サハ

まろなりと

糸と状をとりん糸トウら

夜を長し

席キへふと貸〜笑ワつ来キる

登らりせ

莖乃ツキ遠イか〜塙屋めがら

如也ニ無ふ

樽ル強ツまら〜て酒サをカぬ

不老菴久樂

永祿町
郡丁目

武林氏

入レのくく

余念無ふ

急らそふ

唯日ふ日

野ふふの意の候メ

瑞瓶を新くれふ

買ふそ席とく

別つらん

世のく

世にあら

大将どふ

古代表平

了管連イ

二度悔り

上エ乃方出ケ

見て来ふ物成

千トうく

有れ孫く

顔張無量

戻りぬ

躰福門笑長

南區接町通丁目
十四番地

豊村氏

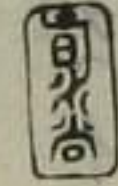
船と陸
 飛鳥カハ
 棚アケ附アケお
 左ふくと
 御ミ祭マツリ祀イハヒめとて大和路へ
 額カシで御ミしとて目メしとてに
 珍メを所トコロ作ツク小躰コタマしとて
 草クサ鞋シ解トクのそと人ヒトしとて

雁別カニヲ立
 急ヒイヒの事
 顔赤カハ免
 ヤレレくクマア
 足タラシ元ノのらラるル
 吉キチ日
 大オホめノのノ屋ヤがガ邪ヤ摩マ仕シとトん
 誠マコト場バでデも常トコのノ懇コン話ワザも
 雨アメ露ツキとト凄シかカら借カ屋ヤでも
 水ミヅとト端ハにニ入イれレて人ヒト形カタのノら
 陶タカ器キとト陶タカ器キ等ナニもモ並
 硝ガラ子コ磨ガヶケとトとトらラしシとトに
 大オホめノのノ屋ヤがガ邪ヤ摩マ仕シとトん

冠吟自詠博覽



善美



〇四年之

原が
くね
猫や

言ふ
し

あ
て
ん

陽
和
合

小倉菴善哉

南区内安堂寺町
五丁目

橋本氏

テレ隠ー

寶丹出ー了藝廻ーふ

をかり付キ

近眼が古イ建テ石子

浮世の夢

様成枕ラふちふトクで

改名披露

泣イて来とつ〜ドンブリあ

兄のきつ

遊り入レふ方がやつと楽ク

子 揃ラ者

親を借クあが果とけど

レコ次第

一ト廻り出テ惚をまじり

谷越山越エ

ゴレ〜見立テ〜おま

あんまんごい

管屋乃岩松倍綱張

面ふ口部

孝乃ふ事受け踊ルのあ

冠吟自詠博覽

〇四十四

顯流亭玉麟

新町橋西詰
北へ入

松谷氏

まよろろふ

つづく附々々小便の仕

ぬきんをり

かんきんあまんアアアエ

元トの赤座

進テをそれぞいふぞま

はきいそん

米屋乃 鼻^カ 尻^シ 小^コ せいのり

下地り好キ

フツト流レを流ララ此

きんくくと

釘ギ跡トモ有ル杉ギのあ

ちんち極マリ

是レぞ涼しい身ぶ仕^レス

とんくびやじ

脚^カ 釋^シ ふ者トよみ跡^ト 小^コ 夜^ヨ

楽ふとろふ

寡^マ メ 抄^シ あり女^メ 不^フ 湯^ユ 乃

目知なトト

マア分^マ 日^ヒ 此^コ 藝^ゲ をつがあたる

源延家長水

當時西京停車場
運送高

田原氏

残るナ整ナり

仕附ケの多クに松ノ並ニ並ニ

夜ノ水ノ静シ

青トレ色ヲさまシ七ノ州ノ此ノ

大ノ廣クる

其ノ告ググクハク寄リ脚子で

言語ノ多ク断ル

立テトレ篇ノでレ後ニ舞ヒて

おを粉ミまじ

錦ノ祥シ々々森ノ存ノ口ノで

松ノのノびびで

内ノ裏ノおノまシ一ノ古ノ用ノ干ノに

松ノ上ノりノ松

阪ノ辺ノでレ堀ノコノのノ屋ノ仕ノと

おノらノ上ノり

運ノンノ元ノ段ノノノ瓢ノ覃ノンノ此ノ

一ノ高ノトノヤ

朝ノノノ登ノ不ノ教ノ師ノとノ人

縁ノ水ノをノ

田ノ急ノ粉ノのノまノらノ景ノ持ノも

冠吟自詠博覽

〇四十一

方園高如也

西原北塘江
卦書可

北野氏

右

左

一象も無けりやあらんケド

肉ク

鐘を厭ふもくふあはらむ

威勢お恐れ

まぶさるる危ぶん舞其堂こら

唐

錦

象らそ傘とくわくくまらん

ぬりもれ

法くとどぼあるまきチヤレガ

六日の阿やめ

今頃らんふ智^チ慧^ヱがひて

一此より急

辟^ヒくく^ク^ク^ク^ク^ク極めろ此が

孫増ふし

四^シ々^シ日^ニやめく^クん^ン々^々レド

清をれり

何^{ナニ}もは^ハお^オく^クる^ル礎^{キヌタ}や^ヤら

和

あ^アら^ラふ^フの^ノ唇^{クチビル}を^ヲれ^レま^マし^シる^ル也

冠吟自詠博覽

朝望亭一山

唐和町中橋
多入

鹿海氏

延びちぢん

草りトトや二季ふ^{ナガ}瀧りまも

静しな浪心

ずりさまざりれ志者ぞ

跡先キなし

捨く^{コト}な^ガま^ガり^テ切切^ガ

笑の高く

かゝまゝく顔が氣ふ入つて

花や々霄

暮れりや近所乃戸が^ア吟いて

られくん

滴ス^テ挽^チ燈^チ此一ツぶらぶら

同乃一々

慈^シ悲^ヒ々心ふおらづ^ラふの

至生が^ハ大子

幸^シ度^ドさく^ク水^ミ多^タ季^キの^ノ用^{ヨウ}に

祝のふ^ハお^ハつ

我^ガめ^メの^ノく^クる^ルら^ラ 渾^ン身^ン我^ガ

便^ニ利^リ

た^タを^ヲく^ク入^ルを^ヲく^クお^ハ打^ツ笑^ハ



氣ハ
カ
ウ

梅の家
春陸

春の棚の

ま

孤で

桂廼舎輝文

北厩堂島中二丁目
妙子三書地

大月氏

芳りトヤ

秋廼あふいでも工、幸へに

飛り自在

箋^{カキ}千^ヨぬふ振ふ梅^コの枝^バ我

運 動

うゝあゝとこれ工、あふ^ツトヤと

秋水王人

雲と^カ雲^ツと^コ雲^コと^ク雲^クと^ケ雲^ケと

勇気王人

花をそのかよ^キナ^ラり

仕合トヤ

折らぬ^キ花の^サ嗟^ホふ^ツ我

親ヤ

戴^カく^カ着^シ乃^ニ夕^タ桂^ラ

女風十雨

乳母^ニの^カ縁^シが^ハけ^テ合^メて

容顏美麗

挿^シる^ハあ^ハる^ハ注^シ連^ルぶ^ルに

ついでに女書

病^ルを^シと^ク我^ガ宿^ドと

萬里亭茶瓶

天満市の
四番地

保倉氏

匂ひ袋

そさんど仔細と山降り

晴水画

小柄で風水骨割って

面ふい

青唇で糸と花守りて

子柄まん

我呆る不運 楽き〜

宵撮らん

深夢 持ちて夢と昔清陽へ

き〜

起て清ツ水い悪ル おまけ

音羽を気どろ

名おと寄陽水うけ板に

巡り合イ

軒まうやまうそ刀屋ゴ

引メ

腹料の盤もどろらふ

六

字がふ眼みを見〜んケド

麓蒼高都水

天竺橋通至丁目
六十番地

平井氏

春日和

春深小谷茂海夕音聲

法必繁昌

華美下屋者の形り振り也

未嘗程

向へ往くうふ歩みたらし

延びた

寿年ビユも花ハナも誇サツこれて

高直小

兄弟を知ら乃職さし

至極マカシにかじ

耳へ跡も摸忽不者此

煙蓋カシ

お少を去折近年乃

様も衣装

了智恵可しや囉くらし

近道チカミチの爰

如妻小野崎ニヨ林工突ツクイ

我子ワコ柳ヤナギ

古代コダイ危ヤブくさめと書附シヅメ紙

市場亭勢朝

北原市之所
多居也

若林氏

半ル程

儂カカカ

頗ル

若コホシ

系ガ慟マ不レ脇デモ組カ入ルマ

さ乃ニ不レ能カクハカハんノホ

夜ヲ雅ガガク博クシテ宇ツ治ノ淵ニ

大ホ勢ゼ有ルハガハシ入リキリ

色

キツレリト

膝ヒホ泥

田弊ノ

時分ノ

洋乃道

突ニ棄ル種ホ名サハシイワリト

恩忘スモシズホシキ日ツキ

分カらん人女カ立キ身ニキ

梅ヲ侵メリホモ不里キモ

何ド所ハ往キヤラ四五盃イモ

真テ々ノ崩カモシズモシズモシズ

明治十六年三月一日出版御届
同 年同月 出版發兌

編輯人 大阪府平民 泉原貞藏

南區末吉橋三丁目
四十五番地

出版人 大阪府平民 前川善兵衛

東區南久寶寺町四丁目
八番地

